

さくら並木

～コロナ禍への支援対策（第3弾）と、
アフターコロナの地方像を考える～

大河原町長 齋 清志

9月2日に招集された大河原町議会定例会（9月会議）が15日に無事閉会となりました。同意・諮問（人事案件）各1件、令和元年度決算に基づく報告4件、令和2年度補正予算関連ほか議案9件、そして令和元年度一般会計歳入歳出決算ほか認定8件の全てについて可決となりました。監査委員の決算審査と議員各位の真摯な議論に対し、改めて感謝と敬意を表する次第です。頂きましたご指摘は、今後の町政に必ずや活かされるものと確信しています。

本議会で可決されましたコロナ禍への支援対策について、主なものを幾つか報告します。まず、国の第2次補正予算からの地方創生臨時交付金の総額は、3億4500万円程となりましたが、さらに町の一般財源から9300万円余りを追加した内容となりました。

- (1) 重度障がい者及び妊婦へのインフルエンザ予防接種助成事業（全額補助）
- (2) ひとり親家庭生活支援給付事業（児童扶養手当者1人2万円給付）
- (3) 外出自粛生活支援事業（全世界帯に指定ゴミ袋Lサイズ10枚入1セット配布）

(4) 農業経営継続支援事業（1経営体当たり17万円の補助及び交付）

(5) 地域事業者経営改善促進事業（委託）

(6) ICT学習教育環境整備事業

(7) 家庭学習用通信機器整備事業

(8) 遠隔・オンライン学習環境整備事業

(9) 学校施設内給水設備感染症防止対策事業他
コロナ禍との戦いは長期に及ぶと受け止めておりますが、引き続き迅速できめ細やかな対応を心掛け、全力で取り組む決意をしています。

さて、各地でのクラスターの発生等県内での感染者の確認が増加の一途を辿るなかで、残念ながら仙南地域に於いても感染者が複数確認される事態となりました。県や仙台市と県医師会とは、『みやぎアラート』をレベル3に引き上げ、さらなる感染対策の徹底を呼び掛けました。療養中の感染者が最多となり、発熱外来への今後の対応や医療提供体制の強化が急務となっております。

そして気がかりなことは、ワクチンと治療薬の承認と確保がいまだに不透明なことや、アフターコロナを見据えた国策の方向性が見えないことではないかと考えています。生命を守る最前線の取り組みが示されないうちは、社会不安が解消されることはないでしょう。また、東京一極集中に歯止めがか

からず地方の疲弊が進むなかにあつては、リモートワークの普及等により、働く場（雇用）を地方に移すような社会のデジタル化が重要だと考えています。コロナ禍への的確な対応とそこから得られる教訓を基に、アフターコロナの地方に於ける社会像が浮き彫りになることを切に期待しているところです。

頑張る地方に対しても、新たなチャンスが訪れて、真の地方創生が実現することを願って止まないこの頃です。

（9月17日記）



▲議会定例会（9月会議）



町内小中学校の情報を
毎月お届けします

学び舎通信

服のチカラプロジェクト ～難民キャンプに服を届けよう～

6年生の総合的な学習の時間で、「難民キャンプに服を届けよう」という学習に取り組みました。これは、株式会社ユニクロが行っている「届けよう、服のチカラプロジェクト」という難民の方々など世界中で服を本当に必要としている人々に服を届ける活動です。活動を通して、難民や貧困の国際問題や、環境問題に関心を持たせ、積極的に社会貢献しようとする態度を養うことを目的として取り組みました。

方々へ直接呼び掛けたりするなど広報活動に励みました。頑張った成果が現れ、用意した段ボールでは足りないほどの服が集まり、難民キャンプの方々に早く届けたいと意気込みを新たにしました。

オンライン朝会で在校生に「小さくなった服を持ってきてください」と呼び掛けたり、PTA活動である奉仕作業の際に保護者の

大河原南小学校



暗唱大好き

古文の暗唱に挑戦!

新型コロナウイルス感染症予防のため、授業や行事、部活動も「新しい生活様式」の中で過ごしています。大河原中学校では、今年度から暗唱読本の内容を授業の中で扱うようにしました。国語科では10月から本格的にスタートします。どの学年も古文からのスタートで、1年生は「竹取物語」、2年生は「平家物語」、3年生は「奥の細道」にチャレンジします。

全体の場で音読したりと、様々な方法で頑張っています。小学校から取り組んできた暗唱読本なので「本がぼろぼろです！」という生徒もいますが、それでも大事に扱い、活用していきます。

教科書の内容に合わせて、1年生は、一足先に「竹取物語」の暗唱に挑戦中です。竹取物語は、教科書にもある題材で、どの生徒も積極的です。一人で暗記にチャレンジしたり、隣同士で読み合ったり、

大河原中学校



えずこホール イベント案内

アウトリーチ事業 始めました

「アウトリーチ事業」とは、子どもたちや、障がいを持つ方など日ごろ文化芸術に触れる機会の少ない方たちのもとに芸術家を派遣し、アート体験をお届けする事業です。えずこホールでは2001年より毎年たくさんの教育施設や介護施設などを訪問しています。



コロナ禍の中、ダンサーの楠原竜也さんを丸森町と川崎町の小学校へ訪問し、楠原さんが考案した、他者に触れずに、目と目を合わせて互いの動きを感じ合い、音楽に合わせて踊る「アイコンタクト・ダンス」などを行い、TVニュースでも紹介されました。来月には白石市、角田市、柴田町、大河原町の小学校へピアノの師匠の中川賢一さんとフルーティストの荒川洋さん、オペラ歌手の村上敏明さん（テノール）ら音楽家と共に伺います。3密を避け、他のアーティストを連れて、小学校以外にも、保育所や介護施設なども訪問する予定です。

みんないてよ えずこひろば ～親子で楽しむ遊びの場所～

おもちゃいっぱい遊びコーナーや、カフェスペースでおいしいお茶を、おとなも子どもものんびりできるくつろぎ空間です。10月は楽しいハロウィン工作を行います。親子で一緒に歌って、踊って、遊びましょう!

10/7 [水]
10:00～12:00

ホワイエ 参加無料

*出入り自由/申し込みの必要はありません。



えずこホール
仙南芸術文化センター

お問い合わせ TEL 0224-52-3004
〒989-1267 柴田郡大河原町字小島1-1
URL : <http://www.ezuko.com/>
info@ezuko.com